

はちの医師会より

NO. 650 令和 5 年 8 月 20 日 八戸市医師会

緑 蔭 特 集 号



巻頭言 八戸市医師会勤務医部会の刷新

目 次

表紙絵解説	大池 薫	2
☆巻頭言☆ 八戸市医師会勤務医部会の刷新	伊神 勲	3
☆緑蔭特集☆		
仁田四郎の猪退治	金田 裕治	5
どくた句会抄		7
漢詩四篇	北村 英彦	9
書道二点	金田八重子	12
暑中お見舞い	北村 箴至	14
1. 晴海出航, 南極へ 2. 赤道祭り	川守田 究	16
穆 然	菅原 泰男	18
渋民村の夏	西村 幸也	19
盛岡に様々な文化を植え付けた「方長老」について	田口 雅海	21
健診で パニック (値) ? ! ?	岡本 道孝	23
自由とは何か	神田 進	25
令和5年7月定例理事会		27
八戸市医師会役員		41
八戸市医師会議長・副議長		41
八戸市医師会裁定委員会		41
八戸市医師会理事職務分担		42
八戸市医師会各委員会名簿		43
第111回定時総会		45
☆学 術☆		
第662回八戸胸部疾患懇話会		48
第291回青森県南皮膚科医学会学術講演会		49
青森県医師会生涯教育講座		50
第65回日本小児神経学会学術集会		51
第153回東北連合産科婦人科学会総会・学術講演会		52
☆臨床検査・診療メモ☆		
統合失調症の認知機能障害と認知機能リハビリテーション		54
☆倶楽部だより☆ 八戸市医師会ゴルフニュース(第4報)		56
八戸市休日夜間急病診療所利用状況		58
デーリー東北新聞社提供		59
ドイツ留学思い出昔話38. 所変われば品変わる(6) (家事用熱源とドレー・キップ窓)	橋本 功	60
研修～リレー日誌～		63
会員消息		64
事務局日誌メモ		67
行事予定		67
編集後記		68

表紙絵解説

彼岸花

彼岸花は、別名を曼珠沙華と言います。サンスクリット語で『天界に咲く花』という意味だそうです。最初にこの花を見た時は、この世の物ではないような不思議な感覚を覚えました。真っ直ぐに伸びた茎の先に真っ赤にそり返った花弁、突き出した雄しべや雌しべ、ハッとするほど綺麗で、神秘的です。今年も、お隣のお庭で姿を見られるのを楽しみにしています。

(大池 薫)

巻 頭 言

八戸市医師会勤務医部会の刷新

前八戸市医師会勤務医部会 会長

伊 神 勲

日本医師会は、今年度より医学部卒後5年間は会費減免を決定し、多くの都道府県医師会及び郡市医師会でも同様の取り組みが実施されています。医師会組織強化の取り組みの一つとして、「会費減免終了後も医師会に定着する流れを作るため」と説明しています。医師会員の確保は、日本医師会の発言力の基盤であり、各都道府県医師会においては日本医師会代議員数に反映されるものです。

八戸市医師会勤務医部会は、昭和63年3月に設立されました。全国的にも早い時期であり、県内初でした。八戸地域は、県内の他医療圏と異なり、出身大学の異なる混成医療圏であるため、自然とお互いに尊重し合い、時には付度も含め円滑な医療連携のために協力関係を築いてきた過去がありました。そこで勤務医部会を立ち上げ、さらなる地域医療連携を推進しようとした先達たちの熱意が伺えます。八戸勤務医部会設立時より、地域医療にいかに関与するかを模索され、平成7年度に第1回の「勤務医と開業医の話し合いの会」が開催されました。当時不備であった救急医療連携をテーマに始まり、開業医と勤務医がお互いに腹を割って、積極的に互いを理解し助け合う話し合いの会（八戸市医師会設立75周年記念誌参照）が開催され、以後平成30年の第25回まで、勤務医部会の重要な活動の一翼を担ってきました。

勤務医部会の会員数は、八戸市医師会会員数が5百数十名の内、勤務医部会員数は4百名弱（A会員以外、市内3病院の初期臨床研修医50名前後を含め）と数の上では一大勢力です。しかし私たち勤務医にとって、医師会活動同様に勤務医部会の具体的個人的意義は、日々の診療に忙殺され感じられないところがあります。しかし勤務医部会の活動方針は、とにかくは多くの先

生方に参加いただけることを旨とし、全国医師会勤務医部会連絡協議会には毎年各病院の先生方が交代で参加し、勤務医を取り巻く諸問題とその対処法の取り組みを聴講、勤務医部総会で報告しています。今年はこの連絡協議会が幸いにも青森市で開催されます。今回は参加者の人数制限を設けていませんので、多くの勤務医部会員の参加が望まれます。

八戸市医師会主催の初期臨床研修医歓迎会は、平成26年から県内で初めて開催されました。種々の大学出身者が集まる八戸市内3病院の初期臨床研修医たちを、医師会として温かく迎え、共に地域医療を担う上での重要な顔見世と懇親の機会となっています。また、歴史ある八戸医学会に研修医セッションを設け、市内3病院の研修医から積極的に演題を募集し、優秀発表賞により研修医を表彰しています。現在では、八戸医学会の演題の約半数が研修医の発表となっており、医師会の先生方には発表を通じて研修医の成長を見守っていただいております。

今後もこのような活動を引き続き発展させるべく、新たな勤務医部会長に八戸赤十字病院玉澤先生、副部会長に八戸市民病院水野先生、五戸総合病院安藤先生、青森労災病院崎原先生に委ねたところです。多くの若い勤務医達は、原始の海のスポンジのごとく偶然の力でここ八戸に集いまた離散していきます。一時期でも共に八戸医療圏で勤務し、連携し合えたことや懇親できたことが、いつの日か思い出と共に再会につながることを祈念しております。今後も八戸市医師会会員皆様の暖かいご指導とご鞭撻を、勤務医部会によりしくお願いいたします。